授業科目	＊専門演習Ⅰ(西原)					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	3	開講時期	前期
担当教員	西原　真弓						
授業概要	「専門演習Ⅰ」は半期(15 週) 完結の科目であるが、後学期開講の「専門演習Ⅱ」に直結した科目である。このため、同一受講者が受講することになっている。加えて、次年度も継続指導が原則であるため、担当教員は、４年次の卒論指導(必修) も念頭に入れて、２年がかりの指導をすることになる。すでに授業内容の概略が事前(2 年次の 12 月) に提示され、ゼミ受講者が決定しているため、２週目以降の詳細は、各担当者が、英語学科 DP の９項目を充たす指導内容を組み立てて、授業時に提示することになる。 1. 国際的視野・地域的視野での豊かな教養と幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 現代社会の諸問題について論じ、対応策を考えることができる。 4. 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 5. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創り出すことができる。 6. 国際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 7. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができる。 8. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 9. 情報収集・情報処理能力を身につけることができる。						
授業形態	講義・演習			授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1. 国際的視野・地域的視野での豊かな教養・幅広い知識を身につけることができる。 2. 英語に関する確かな知識と運用能力を身につけることができる。 3. 英米文化のみならず世界の文化に関心をもち、理解を深めるための意欲を身につけることができる。 4. 他者と協働可能なコミュニケーション能力を身につけることができる。 5. 情報収集・情報処理能力を身につけることができる。
理想的レベル	1. 現代社会の諸問題について論じ、対応策を考えることができる。 2. グローバル社会の中で、他者と協働して良い環境を創り出すことができる。 3. 国際社会の一員として、積極的に責任ある役割を果たすことができる。 4. 国際社会・地域社会の発展に、各自の能力や知識を役立てることができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	30%	
発表（口頭、プレゼンテーション）	50%	
レポート外の提出物		
その他	20%	授業貢献度で評価します

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	EN31601J/E

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
各担当教員からの課題に応じて、予習・復習を繰り返すことになる。	4

授業計画	
第１回	テーマ：オリエンテーション（各担当者による教科運営に関する詳細な説明など） 各ゼミ履修予定者は、担当教員のテーマとその概要に基づいて、すでに振り分けられている。このため、第２週目以降の、DP９項目を念頭に置いた授業進行の詳細に関しては、各担当教員より提示される。。
テキスト	担当教員ごとに紹介します。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	担当教員ごとに紹介します。
課題に対するフィードバックの方法	Regular feedback will be provided by the teacher orally during class.
学生へのメッセージ・コメント	専門演習Ⅰ・Ⅱ（通称ゼミ）は受動的な教科ではありません。過去２年間で培ってきた各自の力を能動的に発揮できる教科です。このため、受講者は各指導者の基で、何事にも積極的に取り組んで下さい。努力すればする程、その結果は将来のあなたの糧になります。